

令和 6 年 トキの分散飼育の状況等について

1. 令和 6 年 トキの分散飼育の状況について

(1) 取組方針

国のトキ野生復帰検討会の方針に基づき、『自然繁殖（自然ふ化、自然育雛）』を基本として、C L ペア、C O ペア及びC X ペアの計 3 組（6 羽）で繁殖に取り組みました。

(2) ふ化状況

令和 6 年の繁殖期には、3 月 18 日に初の産卵を確認後、計 24 個の産卵があり、6 羽のヒナがふ化し、2 羽が人工ふ化、4 羽が自然ふ化でした。

なお、ふ化したヒナのうち 1 羽については、自然育雛中巢から落下し死亡しました。

(3) ヒナの今後について

5 羽のヒナは、秋ごろまで分散飼育センターにおいて飼育した後、野外への放鳥候補個体等とするため、佐渡トキ保護センターに移送する予定です。

その後、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションにおいて、野生復帰に向けた順化訓練を行い、放鳥を目指すこととなります。

【令和 6 年繁殖結果】

単位（個・羽）

繁殖ペア		産卵数			ふ化数
		有精卵	無精卵	不明	
C L ペア	15	4	1	10	2（人工 1、自然 1）
C O ペア	3	2	0	1	2（人工 1、自然 1）
C X ペア	6	2	0	4	2（人工 0、自然 2）
合計	24	8	1	15	6（人工 2、自然 4）
【参考】 令和 5 年繁殖結果	20	11	5	4	4（人工 2、自然 2）

※不明とは、破卵・巢外投棄・腐敗等により、有精無精の判定ができなかったもの。

※繁殖ペアの形成は、C L ペア（4 年目）、C O ペア（2 年目）、C X ペア（1 年目）



2. 令和5年度トキ生息適地候補調査について

出雲市内におけるトキの生息に好適な採餌環境、営巣環境等の潜在性の高い地域を抽出するため、水田や森林の状況を把握する調査を、令和4年度及び令和5年度に実施しています。

令和4年度は、地形や植生等の資料調査によりトキの生息に好適な5エリア（「神西・神門」「稗原」「斐川南部」「遙堪・高浜」「佐田」）を選定し、令和5年度は、その5エリアにおける現地調査及び農業者・市民向けの意識調査を行いましたので、その調査結果について報告します。

（1）現地調査

令和4年度の調査により抽出した5エリアにおける採餌環境及び営巣環境を定量的に評価するため現地調査を行いました。

ア 調査地点

令和4年度調査における高スコアメッシュを中心に、航空写真により谷筋などエリアごとに10地点程度をピックアップ

イ 調査期間

令和6年2月上旬～令和6年2月下旬

ウ 調査内容

①採餌環境調査

水路・河川形態や水田脇の深み（よけじ）等の常時水域の有無の目視確認、餌生物の有無等の目視確認及び簡易採集

②営巣環境調査

森林内の大径木の有無、植林の管理状況、森林の荒廃状況等の目視確認

<評価方法>

調査地点の評価は、前述の「水路・河川形態」、「森林内の大径木の有無」等を評価項目としたスコア法により行いました。

また、各エリアの持つ調査地点のスコアを比較することにより、エリア間の評価を行い、比較方法については、平均スコアとエリア内の調査地点のスコアのバラつきを考慮し、統計的な判定により比較しました。

エ 調査結果

統計的な判定の結果、採餌環境については、「神西・神門」、「稗原」、「佐田」の3エリアが他のエリア（「斐川南部」、「遙堪・高浜」）よりも好適、また、営巣環境については、「神西・神門」、「遙堪・高浜」、「佐田」の3エリアが他のエリア（「稗原」、「斐川南部」）よりも好適と言えるものでした。

(2) 農業者向けのヒアリング調査

令和4年度調査により選定した5エリア内の農業団体を対象に、トキ野生復帰の意義やその実現に向けて必要な取組に関する意識調査を行いました。

ア 対象者

10団体（1エリア当たり2団体）

イ 調査内容

- ・トキの野生復帰に係る期待、不安
- ・環境保全型農業の取組状況 など

ウ 調査結果（主なもの：個人意見として聴取）

- ・トキの野生復帰については、ほぼ全ての団体が肯定的（否定的意見なし）
- ・トキの野生復帰に期待する意見が70%を超え、「観光資源としての集客効果」、「農産物のブランド化につながる」等の意見あり
- ・トキの野生復帰に関する不安を抱える団体が70%あり、その内容としては、直接的な農作物への影響に対する懸念よりも、農薬等の制限による減収や作業負担の増を懸念する意見が多い傾向
- ・減農薬、減化学肥料等の環境保全型農業は対象団体の80%が実施
- ・今後、環境保全型農業等による水田内の生き物を増やす取組実施の可能性については、ビオトープ整備や雨水たんぼの実施が可能と回答した団体がある一方、補助金や米価補償、地域全体で取り組むこと等を条件として実施が可能とした団体が多く見られたほか、作業負担の増、減収への懸念から実施は困難とする団体もある。

(3) 市民向けアンケート調査

アンケートにより、トキ野生復帰の意義やその実現に向けて必要な取組に関する意識調査を行いました。

ア 対象者

①アンケート用紙の郵送による対象者

出雲市内に在住する18歳以上の者のうち、1,000人を無作為抽出

②インターネット調査による対象者

制限なし（設問により出雲市内の在住確認）

イ 調査期間

令和5年12月20日～令和6年1月31日

ウ 設問内容

- ・トキ関連事業に対する理解度
- ・環境にやさしい農業に係る意識の有無（対象は農業従事者のみ） など

エ 回答状況等

①回答状況

424人（郵送：326人、インターネット：98人）

②調査結果（主なもの）

- ・トキの認知度は高い。トキの放鳥（野生復帰）についても70%以上が肯定的。

- ・環境にやさしい農業の取組に関しては、農業従事者の約80%が肯定的。「できる範囲で取り組みたい」との回答が大半を占める。
- ・トキの放鳥（野生復帰）に否定的な回答も約3%あり、その理由として、「生態系への影響」、「フンや騒音」、「農業に関する負担増」に対する懸念等があげられた。

（４）今後の予定

①トキの餌資源量調査について

トキの野生復帰に向けては、放鳥地周辺の餌の確保が重要であり、餌となる生物の生息状況を正確に把握する必要があるため、餌資源量調査の実施を検討します。

餌資源量調査の調査エリアについては、生息適地候補調査の結果だけではなく、有識者の意見、地元住民の協力体制等を踏まえて選定する必要がありますが、現在のところ、採餌環境の調査結果を踏まえ、「神西・神門」、「稗原」、「佐田」の3エリアの中から選定したいと考えています。

②トキの情報発信について

トキの放鳥については、肯定的な意見が多数を占めますが、PR不足を指摘する意見もあります。今後、トキの野生復帰に向けてホームページ等によりトキの行動や生態に関する情報をはじめとした情報発信を積極的に行います。

3. トキ一般公開の状況について

本年4月、トキ公開施設の来館者数が10万人を達成し、記念セレモニーを開催しました。今後も、20万人、30万人の来館者を目指して、トキの情報、魅力を発信していきます。

【トキ公開施設の来館者数】

年度	4～5月			通年			
	開館日数	来館者数	平均	開館期間	開館日数	来館者数	平均
R 6	53日	9,663人	182人	4～ 3月	－	－	－
R 5	53日	6,372人	120人	4～ 3月	310日	18,997人	61人
R 4	53日	10,057人	190人	4～ 3月※	273日	24,180人	89人
R 3	53日	8,364人	158人	4～ 3月	307日	23,352人	76人
R 2	－	－	－	7～ 3月	229日	15,099人	66人
R 1	－	－	－	7～12月	155日	16,634人	107人

※R 4年度は監視カメラ更新工事のため、12月は休館、1月は休館期間あり

